

課題管理実施報告書

報告日：2010年6月19日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	第1回アジアオセアニア質量分析国際会議
実施日	2010年6月15日(水)～2010年6月18日(金)
場所	つくば国際会議場 エポカルつくば
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他() 展示物: 有 (機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他()) 無
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) その他(質量分析に関わる研究者・技術者、 ならびに質量分析装置および関連機器・器材メーカー)
来場者	人数: 989名、(内訳 海外からの参加者130名、国内から859名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 インタ取材 プレリリース HP, メール発信 その他()
実施者	和田芳直(日本質量分析学会会長・地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立母子 保健総合医療センター研究所長)
内容	○実施内容を具体的に記載 質量分析に関する最近の6トピックそれぞれにアジアおよび我が国の代表的研究者 が座長をつとめ、指定講演と公募から選んだ講演によってセッションを構成し、討 議を行った。 また、中心メンバー12名と我が国からの6名によって開催した運営会議steering committeeでは第2回以後の開催、今後のアジアオセアニア地区の各国学会の連携に ついて意思を統一した。
効果、問題点、 今後の展望と 課題	○実施した効果を具体的に記載 質量分析における我が国のイニシアティブが明確になった。具体的には、韓国、中国、 台湾、インド、オセアニア(オーストラリア・ニュージーランド)の質量分析学会か らすべての会長を一堂に集めることができたことにより、すべてのソサイエティが連 携して活動を行うことが始まった。また、学会を設立していない新興国マレーシアに ついて設立支援を行うこととなり、その点についても我が国のイニシアティブが明確 になった。特筆すべきは、すべての会長と各学会の執行部を集めて開催した運営会議 steering committeeにおいて、質量分析の学術領域について今後、我が国が中心的役 割を担うこと、そして2012年に京都で開催する国際質量分析会議におけるアジア・オ セアニアからの動員が担保されたことである。 また、我が国の研究者・技術者にアジアの学術レベルが相当に高いことを知らしめた ことの意義も大きい。 ○ 実施上の問題点を具体的に記載 採択の決定時期が会議開催の2.5ヶ月前であったが、これでは海外の実力者を確実に 招へいすることは難しい。遅くとも4ヶ月の余裕は必要である。今回は、「採択され なければ、自費で来日する」ことで事前の承諾を得ていたから、成果を挙げられたと 考える。このような事情で、採択前にすでに来日が決まっていた27名について渡航 費・滞在費のみの補助をうけることとなり、学術プログラムに必要な会場費・運営費 について一切の支援を受けることができなかった。もっと早い時期に採択が決まって

おれば、主催としての我が国学会（日本質量分析学会）にかかる経済的負担のリスクを減ずることができる。

台湾の扱いに配慮が必要であったが、あくまで各国学会単位の集まりであるという基本方針で運営した。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載

今回のように我が国で開催する場合に、予想を遙かに超えたアジアからの反響（招待者からの感謝の声やアジアからの学生を含めた一般参加の多さ）はあったが、来年韓国で開催することに決まった第2回に我が国から多くが参加することは、ここで得たイニシアティブを確固たるものにし、またアジア諸国から信頼を得るために必要である。そのような学会レベルの交流について、我が国で開催する今回の企画と表裏一体での支援を望みたい。

第2回は韓国学会がホストとなって開催する予定であるが、韓国学会は今回のJSPSグラントを盾に、韓国政府に支援を要求するとのことであった。